



Omnivocal Beta ユーザーマニュアル

v1.1.3.1

本マニュアルは、Omnivocal Betaの使用方法や操作手順をまとめたものです。
ここから各章に進んでください。

Table of Contents

1. 注意事項	3
1.1. 本マニュアルについての注意	3
1.2. ご使用上の注意	3
2. インストールおよび起動方法	4
2.1. インストール	4
2.2. 起動方法	4
3. 打ち込み作業(Cubase上での操作)	6
3.1. ボイスバンクの選択	6
3.2. メロディーの打ち込み	7
3.3. 歌詞の入力	8
3.4. 発音・発声制御	9
4. 調声作業(Omnivocal Betaエディター上での操作)	11
4.1. 各種パラメーター	11
4.2. パラメータの調整	12
4.3. オートメーションの活用	12
4.4. プリセットの保存とロード	14
5. 発音記号	18
5.1. 発音記号の基本情報	18
5.2. 日本語「かな」発音記号一覧表	18
5.3. 英語の発音記号一覧表	20
5.4. 特殊な発音記号	21
6. FAQ	23
6.1. ホイール等外部デバイスからOmnivocal Betaをコントロールすることはできますか？	23
6.2. 歌詞を入力する「Text」欄が見つかりません	23
6.3. Cubase15を使っているのにOmnivocal Betaを起動できません。	23
6.4. 他のインストールメントトラックのソロエディターモードを有効にしているのに、 Omnivocal Betaの音が流れてしまいます。	24
6.5. Omnivocal Betaとそのボイスを商用利用できますか？	24
7. 改訂履歴	25

Chapter 1. 注意事項

1.1. 本マニュアルについての注意

- 本マニュアル中で使用されている本ソフトウェアの画面は開発中のものにつき、実際の仕様とは異なる場合があります。
- 本マニュアルでは、Cubaseの画面や操作説明は、英語表示の設定での内容をもとにしています。

1.2. ご使用上の注意

- 使用許諾について
 - 本ソフトウェアは、「エンドユーザー使用許諾契約(EULA)」およびプライバシーポリシーに同意されたお客様のみご使用いただけます。EULAとプライバシーポリシーはOmnivocal Beta公式サイトからご確認いただけます。
- 動作環境について
 - 本ソフトウェアの確認済み動作環境は下記Omnivocal Beta公式サイトに記載されていますのでご参考にしてください。
 - WEBサイトに掲載されている動作環境において、基本動作確認を実施しておりますが、各ソフトウェア、ハードウェア固有の設計仕様や使用環境などの違いにより、使用できない可能性があり、完全な動作を保証するものではありません。
 - 記載されている条件を満たしている環境での動作をすべて保証するものではありません。
- サポート
 - 使用許諾、プライバシーポリシー、動作環境、その他詳細はOmnivocal Beta公式ページをご覧ください。
 - [Omnivocal Beta 公式ページ](#)
 - 本ソフトウェアに関するお問合せは下記の専用窓口にて承ります。
 - [ヤマハ製品 Omnivocal お客様センター お問い合わせ](#)

Chapter 2. インストールおよび起動方法

2.1. インストール

インストールおよび、アンインストールはSteinberg Download Assistantで行います。
詳細は以下のページをご参照ください。

- [Steinberg Download Assistant](#)

2.2. 起動方法

Omnivocal Betaを割り当てたインストゥルメントトラックを作成してください。



MIDIトラックではなく、必ずインストゥルメントトラックを作成して下さい。
また、Event TypeではMIDI Partを選択して下さい。
Pattern Eventではプラグインの起動はできますが、音を鳴らすことはできません。

方法1

プロジェクトウィンドウの右ゾーンより、Mediaタブ→「VST Instruments」→Omnivocal Betaをトラックリストのエリアにドラッグしてトラックを作成

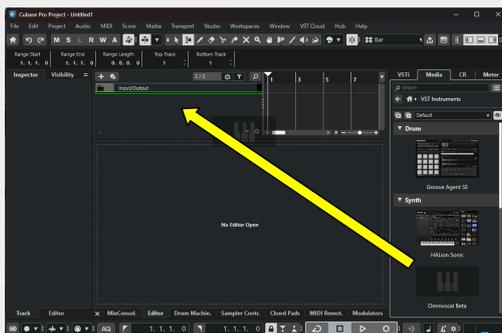


図 1. 右ゾーンからトラックに追加

方法2

トラックリスト左上の「+ (Add Track)」→「Instrument」→プルダウンからOmnivocal Betaを選択

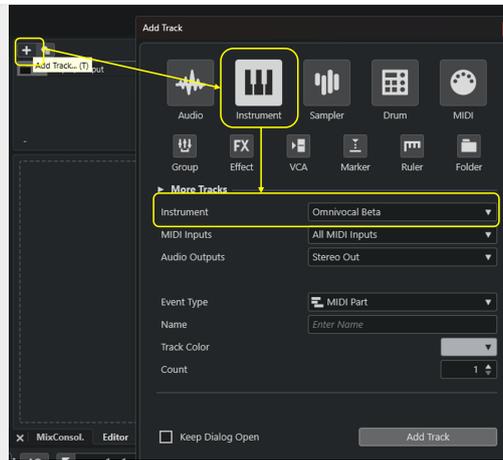


図 2. +ボタンからトラックに追加

Chapter 3. 打ち込み作業(Cubase上での操作)

Omnivocal Betaをインサートしたインストゥルメントトラックのピアノロール上にノートと歌詞を入力することで、ボーカルトラックを作成することができます。



MIDIトラックではなく、インストゥルメントトラックに直接打ち込む必要があります。

3.1. ボイスバンクの選択

まずは、ボーカルトラックに使う声を選択します。

3.1.1. シンガーの選択

Omnivocal Betaの編集画面を立ち上げ、「Singer」プルダウンから使用したいシンガーを選択します。

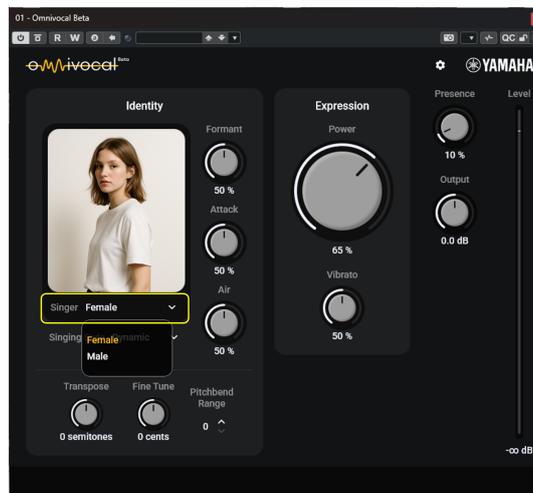


図 3. シンガー選択画面

3.1.2. スタイルの選択

「Singing Style」プルダウンから、上で選択したシンガーの歌い方(スタイル)を選択します。

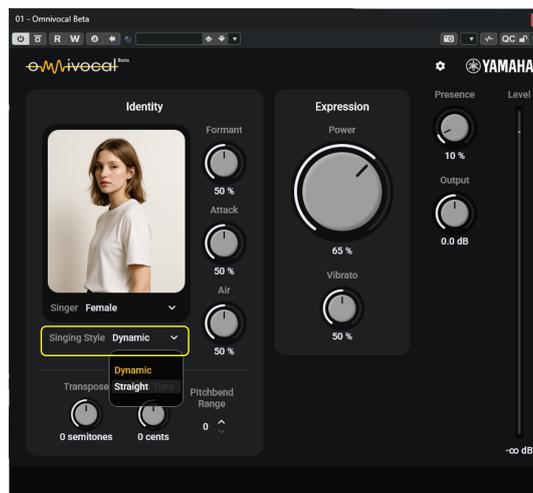


図 4. スタイル選択画面

Table 1. 「Female/Male」のStyle

名前	説明
Dynamic	大きめのピッチ変化で感情豊かな歌声が特徴のスタイル
Straight	安定した素直なピッチ変化で自然な歌声が特徴のスタイル

3.2. メロディーの打ち込み

Omnivocal Betaが割り当てられているインストゥルメントトラックのキーエディタに直接ノートを打ち込みます。

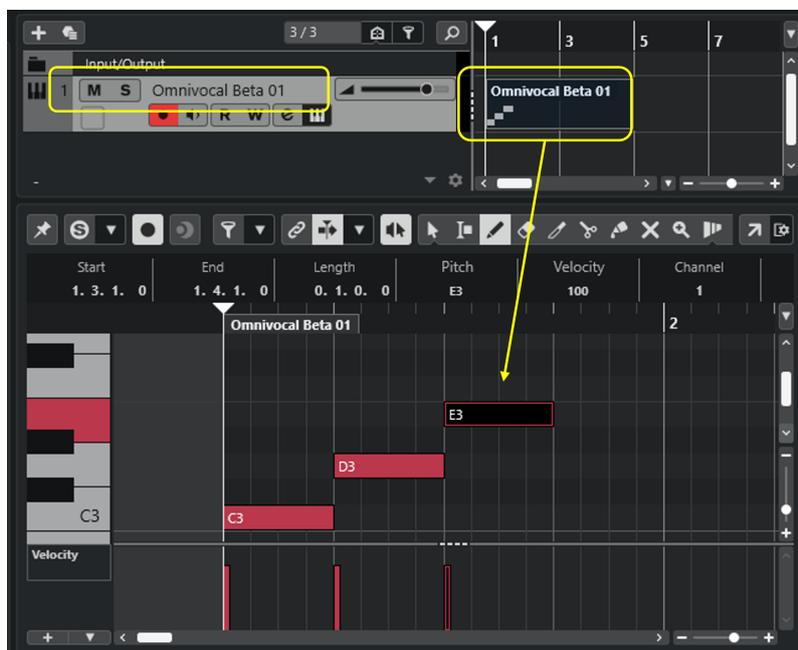


図 5. メロディーの打ち込み

ノート入力時にガイド音が鳴ります。音高確認用の音のため、ガイド音をボイスバンクの出力音として鳴らすことはできません。ガイド音は設定(歯車アイコン)→「Guide Toneからオン/オフを切り替えることができます。

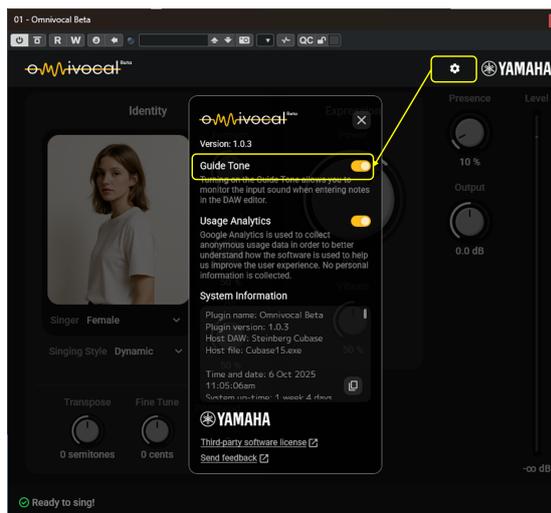


図 6. ガイド音のオンオフ切り替え

3.3. 歌詞の入力

3.3.1. 基本の入力方法

歌詞を入力したい対象ノートを選択し、「Text」欄に入力したい歌詞の文字を入力します。歌詞を入力しEnterキーで確定すると、対応した発音記号に自動的に変換されノートに割り振られます。

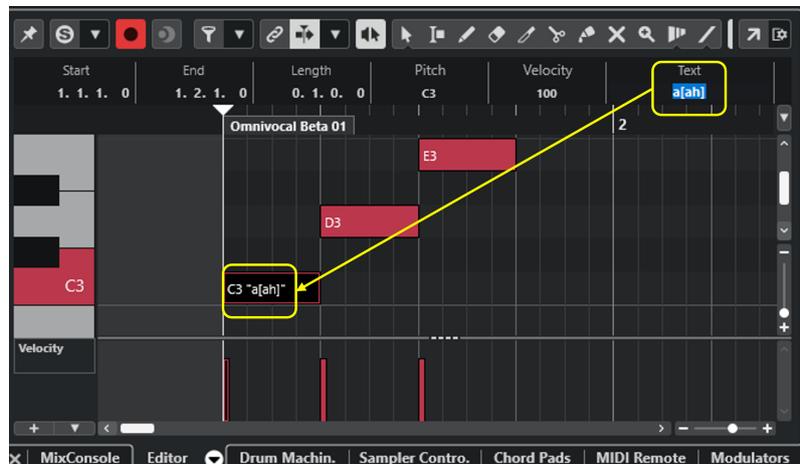


図 7. 歌詞入力

3.3.2. 歌詞の一括入力

歌詞を入力したい対象ノートのうち先頭ノートを選択し、「Text」欄に入力したい歌詞を一括で入力します。Enterを押すと、先頭のノートから順番に対応した発音記号が割り振られます。

Example 1. 英語の一括入力例

たとえばメロディの先頭のノートのテキスト欄に「What a fine day」と入力しEnterを押すと、先頭のノートから順番に4つのノートにそれぞれ[w ah t], [ah], [f ay n], [d ey]という発音記号が割り振られます。

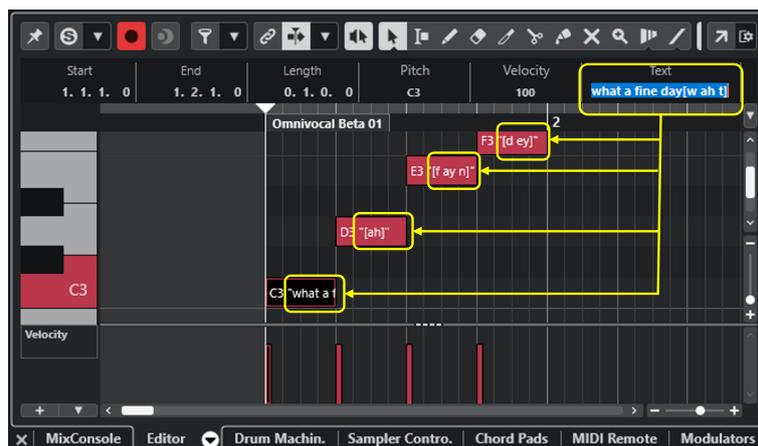


図 8. 先頭ノートC3を選択して英語歌詞を一括入力

Example 2. 日本語の一括入力例

たとえばメロディの先頭のノートのテキスト欄に「ありがとお」と入力しEnterを押すと、先頭のノートから順番に5つのノートにそれぞれ [a], [r i], [g a], [t o], [o]という発音記号が割り振られます。

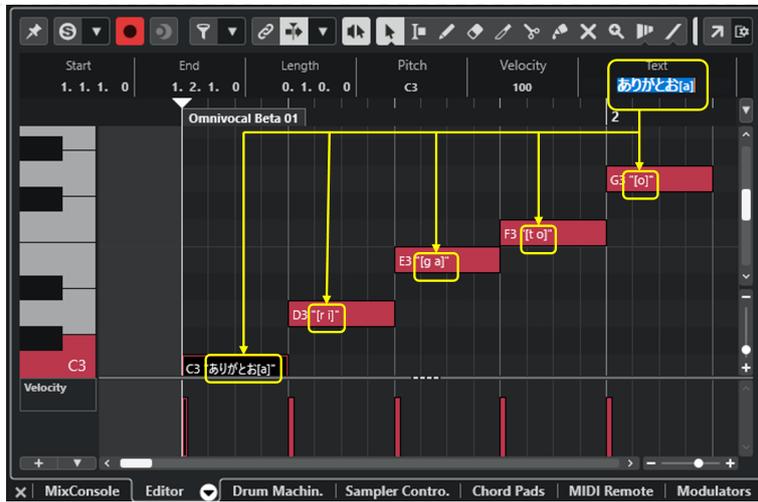


図 9. 先頭ノートC3を選択して日本語歌詞を一括入力

Example 3. 英語と日本語が混在する場合の一括入力例

たとえばメロディの先頭のノートのテキスト欄に「さいこおのMusicで」と入力しEnterを押すと、先頭のノートから順番に8つのノートにそれぞれ[s a], [i], [k o], [o], [n o], [m y uw], [z ih k], [d e]という発音記号が割り振られます。

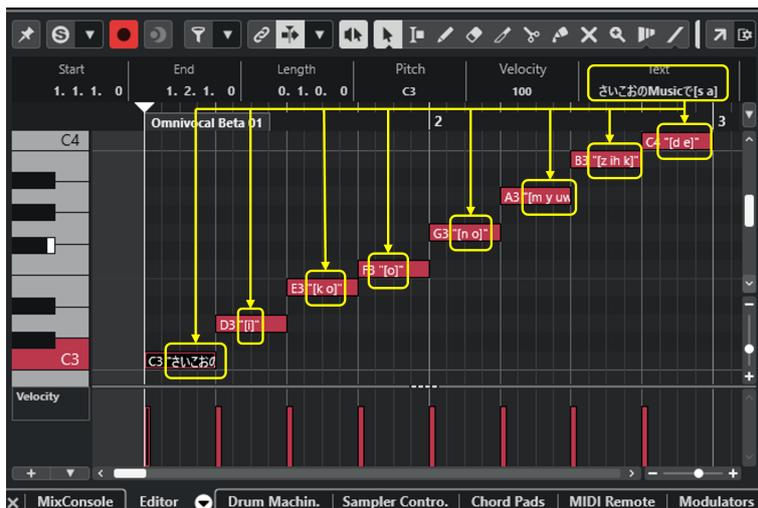


図 10. 先頭ノートC3を選択して英語と日本語混在歌詞を一括入力



歌詞ではなく、**発音記号**を直接入力することも可能です。発音記号を入力する場合は発音記号をブラケット[]で囲んでください。中には**特殊な発音記号**のような、通常の歌詞入力では表現できない、歌い方に幅を持たせるための記号もあります。

3.4. 発音・発声制御

特殊な発音記号などを使用した代表的な打ち込みテクニックを紹介します。

3.4.1. ブレスの挿入とカット

ノート間隔が離れている場合、休符とみなされ自動的にブレスが挿入されることがあります。ブレスを入れたくない場合は「sil([SIL])」と発音記号を入力すれば無音になります。また、日本語でよくある促音(「きっと」や「ずっと」の"っ")を発音させる場合は、「cl」と発音記号を入力すれば促音として発音されます。逆に、ブレスを強制挿入したい場合は「br([BR])」と入力することで、ブレスを挿入することができます。

3.4.2. 母音の無声化

歌詞に「0」（半角ゼロ）を入れると母音を無声化することができます。「でし0た」や「そし0て」のように無声化したい対象ノートに対し、歌詞に「0」を加えて入力してください。

3.4.3. 歌詞の割当コントロール

歌詞を入力すると、1つのノートには1つの音節が割り当てられます。ただし、以下のようにノートと音節の割当を変更することが可能です。

Example 4. 1つのノートに対して複数音節を割り当てる

通常は1つのノートに対して複数の音節を割り当てることはできません。ノートを分割して、それぞれに1つずつ音節を割り当てることで擬似的にこの打ち込みを実現することができます。

Example 5. 1つの音節を複数ノートにまたがって伸ばす（メリスマ）

テキスト欄に「-（半角ハイフン）」を入力することで、その直前の母音が引き伸ばされます。「-」が続く限り引き伸ばし続けます。

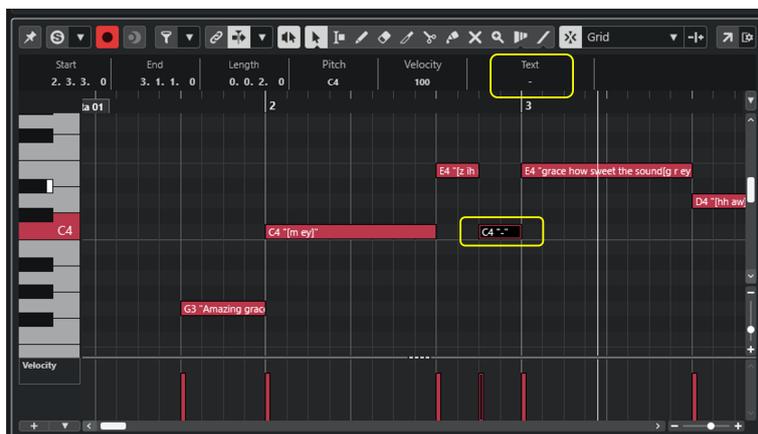


図 11. メリスマの入力

Chapter 4. 調声作業(Omnivocal Betaエディター上での操作)

4.1. 各種パラメーター

Omnivocal Betaのエディター画面は以下のように「Identity(画面左)」、「Expression(画面中央)」、「Post Processing(画面右)」のエリアに分かれています。(Post Processingにはエリア名の表記がありません。)各エリアごとにIdentityでは声質に関するパラメーター、Expressionでは歌い方に関するパラメーター、Post Processingでは出力音の後調整を行うパラメーターを編集することができます。編集可能なパラメーターは以下の表のとおりです。

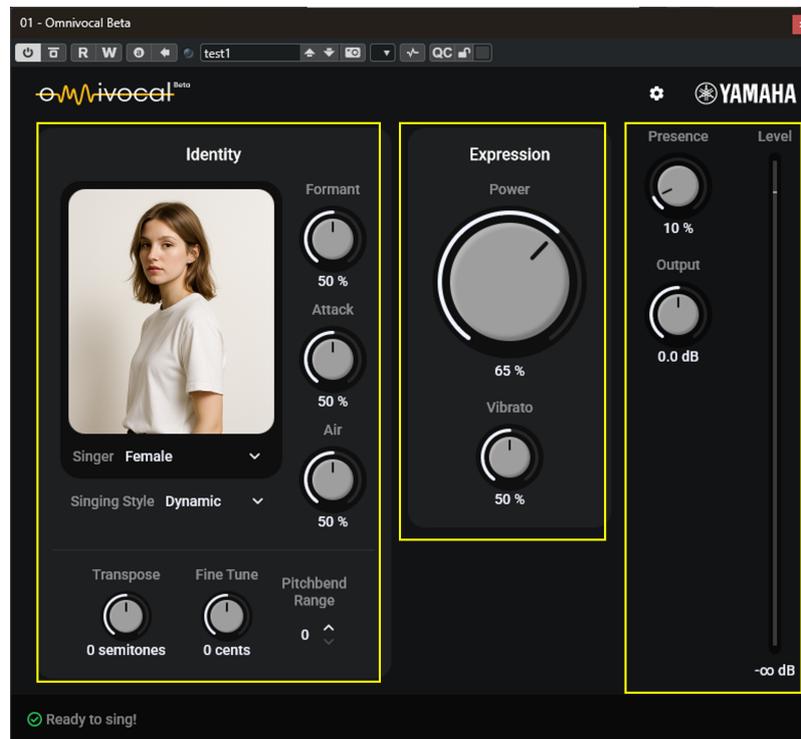


図 12. Omnivocal Beta編集画面

Table 2. Identityパラメータ

名前	説明	初期値	範囲
Singer	ボイスバンクの選択	-	-
Singing Style	スタイルの選択	-	-
Formant	フォルマント(声の色)	50 %	0 ~ 100 %
Attack	発音の立ち上がりのはっきり度合い	50 %	0 ~ 100 %
Air	歌声の息成分	50 %	0 ~ 100 %
Transpose	キーの変更	0 semitones	-12 ~ +12 semitones
Fine Tune	音程の微調整	0 cents	-100 ~ +100 cents
Pitchbend Range	ピッチベンドの最大変化幅を調整	0	0 ~ 12

Table 3. Expressionパラメータ

名前	効果	初期値	範囲
Power	音量や音色も含めたダイナミクス(強弱感)	65 %	0 ~ 100 %

名前	効果	初期値	範囲
Vibrato	ビブラートの強弱	50 %	0 ~ 100 %

Table 4. Post Processingパラメータ

名前	効果	初期値	範囲
Presence	声の強弱に関わらずミックスの中で歌声が存在感を持つように、音量変化と音色を整える	10%	0 ~ 100%
Output	音量調整	0.0 db	-12.0 ~ +12.0 db

4.2. パラメータの調整

基本の調整方法

- **Singer** と **Singing Style** はプルダウンから選択します。
 - 詳しくは「[ボイスバンクの選択](#)」を参照してください。
- **Pitchbend Range** は上下のボタン、もしくは数字自体をクリックして値を変更します。

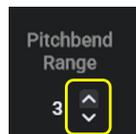


図 13. Pitchbend Rangeの変更

- **Identityパラメータ**, **Expressionパラメータ**, **Post Processingパラメータ**のうち、ノブにアサインされているパラメータにはいくつかの編集方法があります。
 - ノブ上にカーソルを合わせて上下にドラッグすることで値を変更します。
 - パラメータの値をクリックするとテキストボックスに直接値を入力できます。
 - ノブ上でダブルクリックすると初期値に戻ります。

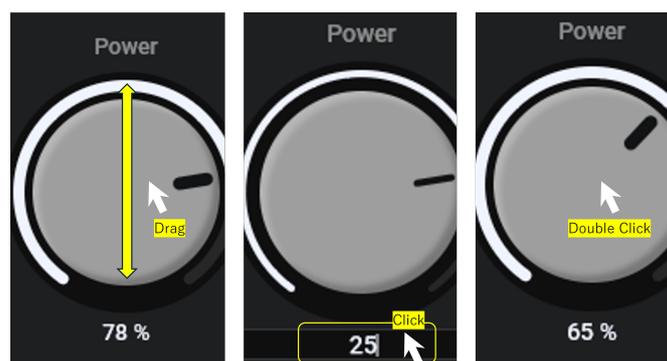


図 14. ノブパラメータの変更

4.3. オートメーションの活用

各パラメータはCubaseのオートメーション機能を使うことで動的にコントロールすることができます。

4.3.1. オートメーショントラックの表示

Omnivocal Betaをアサインしたトラックで、右クリック→「Show Automation」

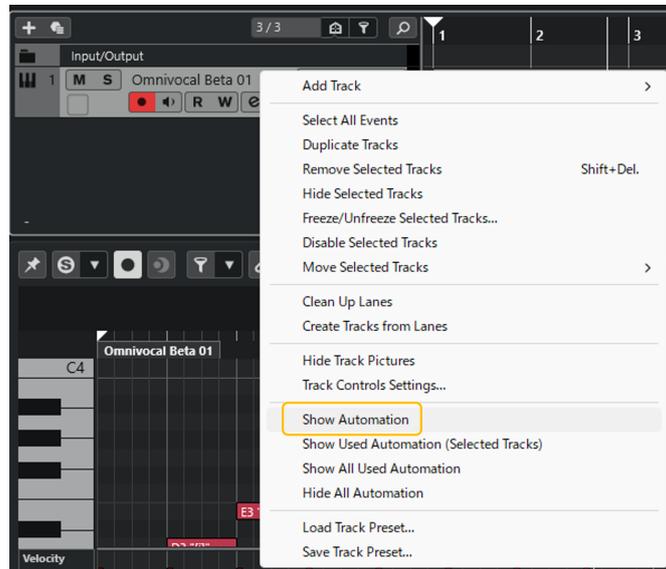


図 15. オートメーショントラックの表示

4.3.2. オートメーションするパラメータを選択

オートメーションで操作したいパラメータを選択



図 16. パラメータの選択

4.3.3. オートメーション書き込み

呼び出し表示したオートメーショントラックに手でパラメーター入力するか、オートメーション書き込み（Wボタン）をアクティブにし、レコードしながらOmnivocal Beta上のパラメーターを操作することでパラメーターが自動で書き込まれます。



図 17. オートメーショントラックを書き込んだトラック



パラメータはMIDIのControl

Change

(CC)には対応していません。外部デバイスでパラメータをコントロールしたい場合は、FAQの「[ホイール等外部デバイスからOmnivocal Betaをコントロールすることはできますか？](#)」の方法をお試しください。

4.4. プリセットの保存とロード

調整したパラメータをプリセットとして保存してロードして使用可能です。

4.4.1. パラメータの保存

Functionsボタン(▽→「Save Preset...」)を選択

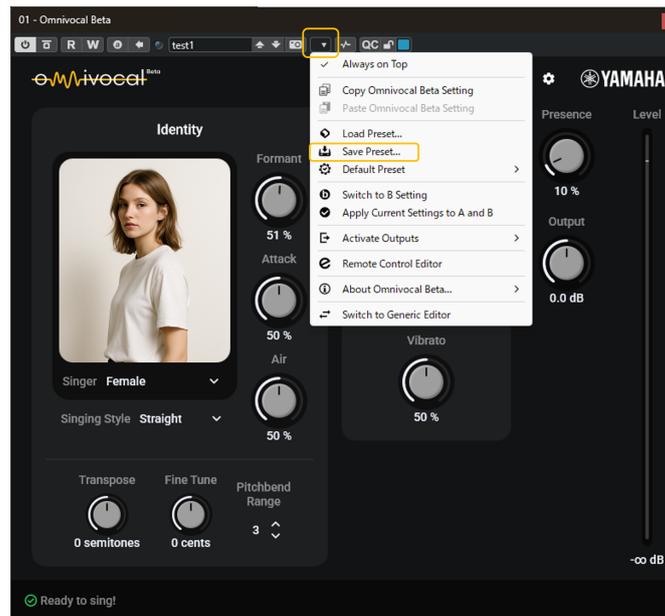


図 18. Save Preset...

プリセットをフォルダ分けしたい場合は、New Folderを押して、フォルダ名を入力→「OK」



図 19. フォルダの作成

保存したいフォルダを選択→プリセット名を「New Preset」欄に入力→「OK」

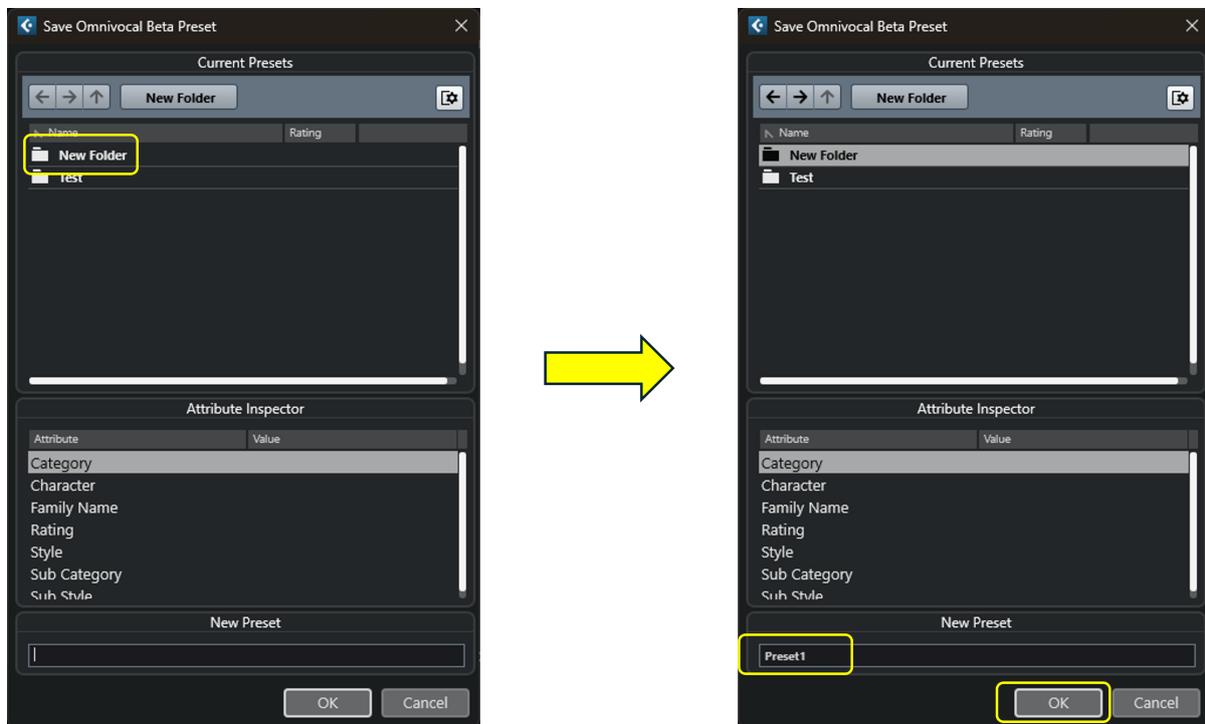


図 20. プリセットの保存

4.4.2. プリセットのロード

保存したプリセットをロードします。

方法1 Load Preset...からロード

Functionsボタン(▽「Load Preset...」)を選択

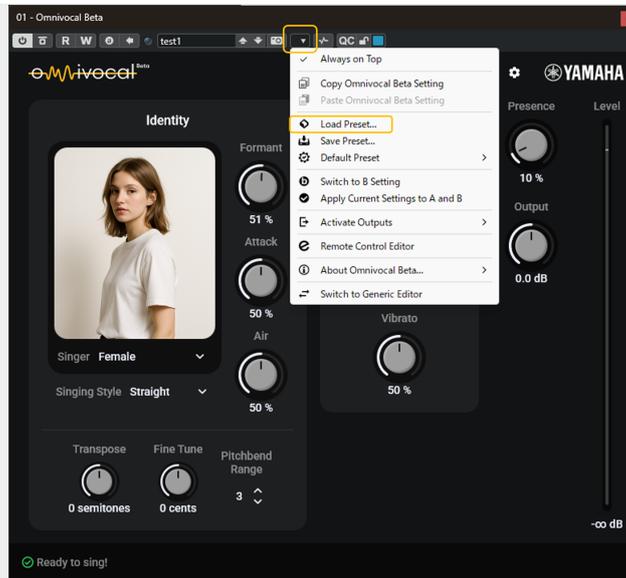


図 21. Load Preset...

デフォルトでは保存したプリセットは一覧で表示されます。一覧からロードしたいプリセットを選択

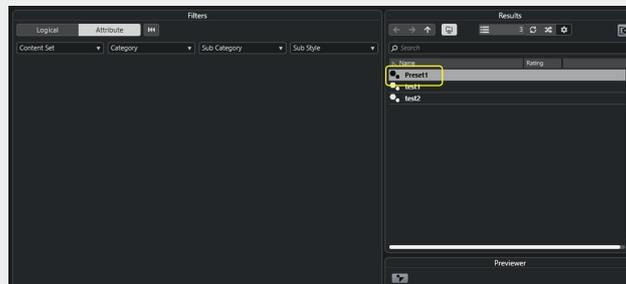


図 22. プリセットを選択

フォルダごとに検索したい場合は、フォルダマーク(Include Folders and Subfolders)をクリックしてオフにすると、上位のフォルダから辿って選択することができます。

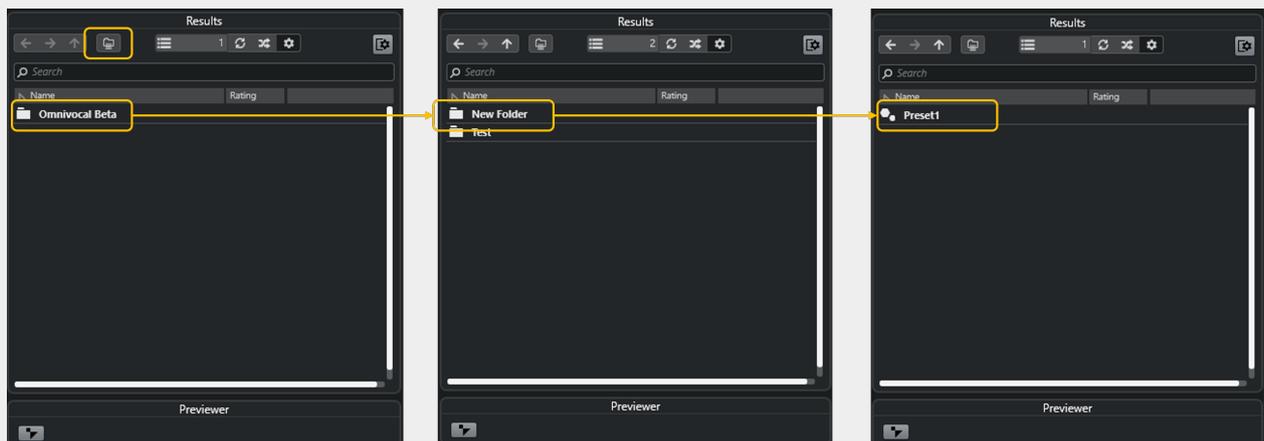


図 23. 上位フォルダからプリセットを選択

方法2 Load next(previous) Programからロード

Load next(previous) Program(↑、↓)を押すと保存されているプリセットが順番にロードされます。

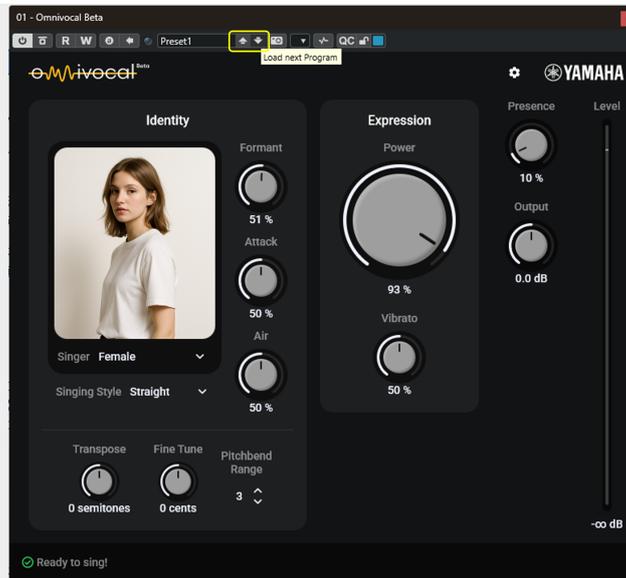


図 24. Load next Program / Load previous Program

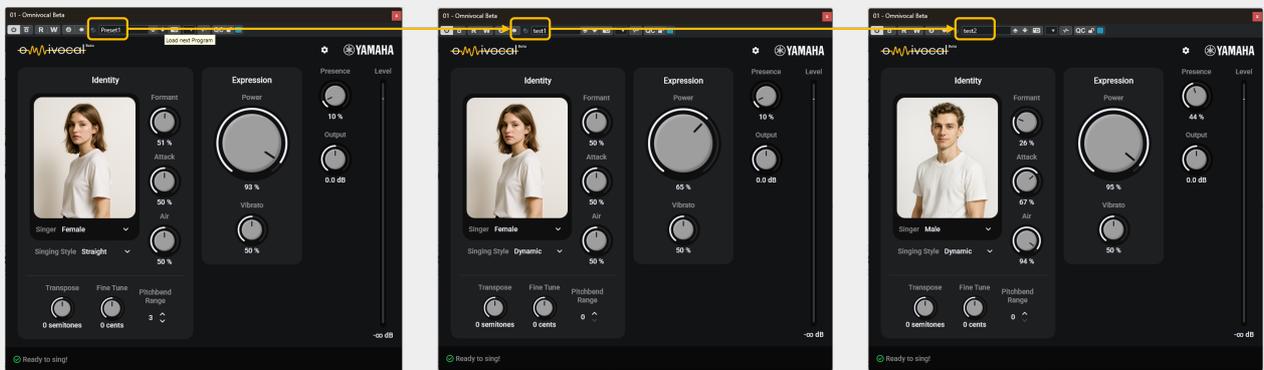


図 25. 順番にプリセットが切り替わる

Load Preset...



表示されているプリセットを切り替えていきます。Include Folders and Subfolders を押して、特定のフォルダに含まれるプリセットのみ表示されている状態では、そのフォルダ内のプリセットの中で切り替わり、別フォルダに保存されているプリセットにはなりません。

Chapter 5. 発音記号

5.1. 発音記号の基本情報

CubaseでMIDIノートの「Text」欄に歌詞を入力すると、以下の表に対応する発音記号に変換されます。発音記号を直接入力することも可能です。その場合は、例えば「ふ」 = [f u] の用に、ブラケット記号 "["と"]"で囲んでください。

5.2. 日本語「かな」発音記号一覧表

あ	い	う	え	お
a	i	u	e	o
か	き	く	け	こ
k a	k i	k u	k e	k o
さ	し	す	せ	そ
s a	sh i	s u	s e	s o
ざ	じ	ず	ぜ	ぞ
z a	j i	z u	z e	z o
た	ち	つ	て	と
t a	ch i	ts u	t e	t o
だ	ぢ	づ	で	ど
d a	j i	z u	d e	d o
な	に	ぬ	ね	の
n a	n i	n u	n e	n o
は	ひ	ふ	へ	ほ
h a	h i	f u	h e	h o
ば	び	ぶ	べ	ぼ
b a	b i	b u	b e	b o
ぱ	ぴ	ぷ	ぺ	ぽ
p a	p i	p u	p e	p o
ま	み	む	め	も
m a	m i	m u	m e	m o
や		ゆ		よ
y a		y u		y o
ら	り	る	れ	ろ
r a	r i	r u	r e	r o
わ				を

w a				w o
きゃ		きゅ	きえ	きよ
ky a		ky u	ky e	ky o
ぎゃ		ぎゅ	ぎえ	ぎよ
gy a		gy u	gy e	gy o
しゃ		しゅ	しえ	しよ
sh a		sh u	sh e	sh o
じゃ		じゅ	じえ	じよ
j a		j u	j e	j o
ちゃ		ちゅ	ちえ	ちよ
ch a		ch u	ch e	ch o
てゃ		てゅ	てえ	てよ
ty a		ty u	ty e	ty o
でゃ		でゅ	でえ	でよ
dy a		dy u	dy e	dy o
にゃ		にゅ	にえ	によ
ny a		ny u	ny e	ny o
ひゃ		ひゅ	ひえ	ひよ
hy a		hy u	hy e	hy o
びゃ		びゅ	びえ	びよ
by a		by u	by e	by o
ぴゃ		ぴゅ	ぴえ	ぴよ
py a		py u	py e	py o
みゃ		みゅ	みえ	みよ
my a		my u	my e	my o
りゃ		りゅ	りえ	りよ
ry a		ry u	ry e	ry o
	うい	うえ		うお
	w i	w e		w o
	すい			
	s i			
	ずい			
	z i			
	てい	とう		

	t i	t u		
	でい	どう		
	d i	d u		
つあ	つい		つえ	つお
ts a	ts i		ts e	ts o
ふあ	ふい		ふえ	ふお
f a	f i		f e	f o
うあ	うい	う	うえ	うお
v a	v i	v u	v e	v o
ふや		ふゆ		
f y a		f y u		
うや		うゆ		
v y a		v y u		
くあ	くい	くう	くえ	くお
k w a	k w i	k w u	k w e	k w o
ぐあ	ぐい	ぐう	ぐえ	ぐお
g w a	g w i	g w u	g w e	g w o
ぶあ	ぶい	ぶう	ぶえ	ぶお
b w a	b w i	b w u	b w e	b w o
ぶあ	ぶい	ぶう	ぶえ	ぶお
p w a	p w i	p w u	p w e	p w o
ん	っ		ー	
N	cl		-	

5.3. 英語の発音記号一覧表

IPA	Omnivocal Beta	例1	例2	例3
a	aa	spot	hot	sorry
æ	ae	smash	plan	last
ʌ	ah	but	trust	monkey
ɔ	ao	jaw	long	all
aʊ	aw	powder	mouse	count
aɪ	ay	try	fire	spike
b	b	best	ribbon	tab
tʃ	ch	check	franchise	touch
d	d	door	thunder	red

IPA	Omnivocal Beta	例1	例2	例3
ð	dh	these	although	bathe
e	eh	fresh	blend	feather
əʀ	er	urgent	first	shower
eɪ	ey	make	space	insane
f	f	fly	coffee	tough
g	g	great	trigger	flag
h	hh	hair	alcohol	behave
ɪ	ih	it	pitch	miss
i	iy	speed	medium	need
dʒ	jh	joke	major	treasure
k	k	keep	perfect	rock
l	l	library	shallow	ball
m	m	mind	coming	team
n	n	nice	pineapple	journey
ŋ	ng	king	Washington	running
oʊ	ow	float	home	follow
ɔɪ	oy	voice	moisture	boy
p	p	please	sport	clap
r	r	release	hero	absorb
s	s	strike	mister	fruits
ʃ	sh	shake	machine	vanish
t	t	team	cutter	fight
θ	th	throat	bath	fifth
ʊ	uh	push	Hollywood	put
u	uw	spoon	statue	issue
v	v	variety	over	sleeve
w	w	way	swim	software
j	y	year	fuel	genuine
z	z	zip	hazard	squeeze
ʒ	zh	illusion	Asia	usual

5.4. 特殊な発音記号

発音記号	用途	効果
BR (大文字) / br (小文字)	ブレス（息を吸う音）	ブレス強制挿入

発音記号	用途	効果
SIL (大文字)	サイレンス (無音)	強制無音
sil (小文字)	サイレンス (自動ブレス挿入対象の休符)	休符扱い (ブレスの挿入を自動に任せる)
-(ハイフン)	メリスマ	直前の母音を、区切り直すことなく持続させる
!(エクスクラメーション)	声門閉鎖	母音と母音のつなぎ目に【子音では動作しない】不連続効果を与える。[a][!u]と入力すると「あ」と「う」の間に声門閉鎖のような効果をもたらし、「う」を切り直して発音するようになる。

Chapter 6. FAQ

6.1. ホイール等外部デバイスからOmnivocal Betaをコントロールすることはできますか？

CubaseのMIDI Remote機能を使用することで、ハードウェアデバイスからOmnivocalをコントロールすることが可能です。 [Quick Control を使ってシンセをコントロール](#)

6.2. 歌詞を入力する「Text」欄が見つかりません

「Text」欄はノート選択時の情報ラインの一番右側にあります。デフォルトでは「Text」以外の情報が全て表示されていることがあり、画面外に「Text」欄が隠れていることがあります。その場合、情報ライン上で右クリックすることで現れる「Set up Info Line」から、表示する情報の種類を減らしてください。

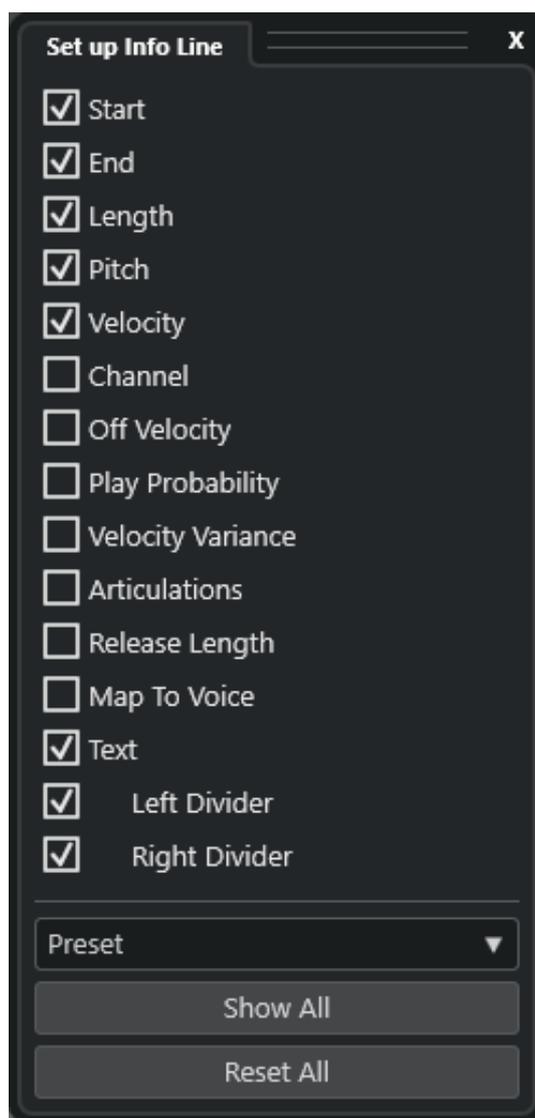


図 26. Set up Info Line

6.3. Cubase15を使っているのにOmnivocal Betaを起動できません。

Omnivocal Betaはインストゥルメントトラックにインサートしないと使用できません。例えばラックインストゥルメントにインサートしても起動できません。その際、以下のようなエラーが表示されます。

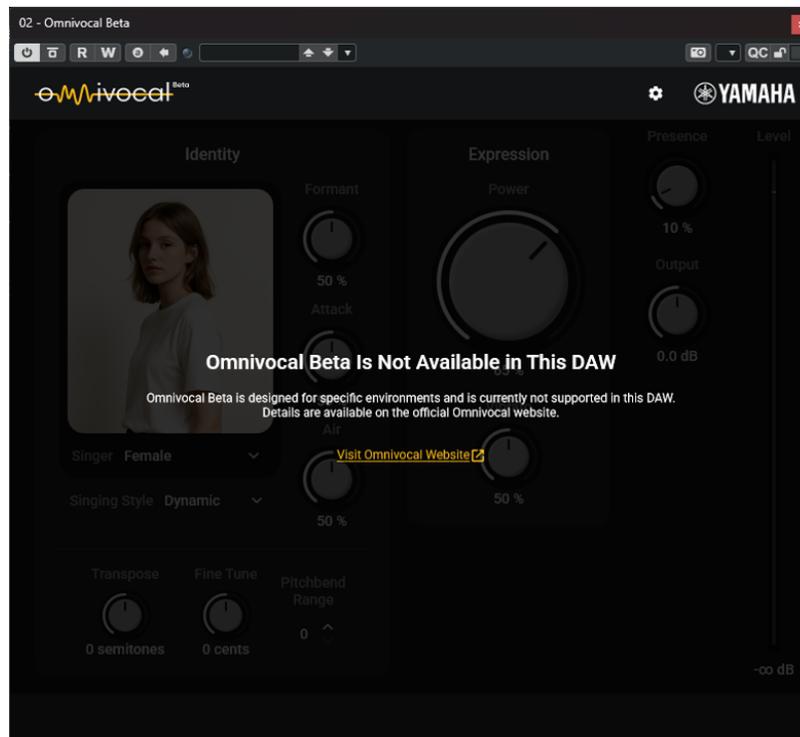


図 27. エラー画面

6.4.

他のインストゥルメントトラックのソロエディターモードを有効にしているのに、Omnivocal Betaの音が流れてしまいます。

Omnivocal Betaは他のトラックでソロエディターモードを有効にしてもミュートされません。ただし、逆にOmnivocal Betaのトラックでソロエディターモードを有効にしているときは、他のトラックはミュートされます。

6.5. Omnivocal Betaとそのボイスを商用利用できますか？

全てのボイスバンクは商用音楽でもヤマハ・Steinbergの許諾およびクレジット表記の必要は無く自由にお使いいただけます。

Chapter 7. 改訂履歴

版	日付	変更概要
1.0.6.0	2025-11-05	初版作成
1.1.3.0	2025-11-25	<ul style="list-style-type: none">・ 起動方法 の注釈に作成するトラックについての注意事項を追記・ 英語の発音記号一覧表 の誤記、および用例の誤りを修正・ 6.2 で、「Text」欄が見つからない原因に加えて、対処法を追記・ 6.3, 6.4を追加
1.1.3.1	2026-01-08	<ul style="list-style-type: none">・ 6.5を追加